

## 今日の説教のポイント<使徒言行録 27 章>

### ①私たちの人生も荒海に行く航海 —ここから聞くべきこと多数！

パウロが遭遇した漂流の様子が詳しく記されています。信仰とは関係ない航海記録のような箇所だなど思うかもしれませんが。しかし、私たちの人生も荒海の中に行く航海のようなものです。そう考えると、色んなことが教えられる箇所です。

### ②パウロにあった「恐れるな」の御告げ。それがなくても大丈夫！

しかし、「パウロには『恐れるな』(24)という神様の御告げがあった。その点が我々とは決定的に違う」、と思うかもしれませんが。しかし、大事なことは、パウロがこれまでも、今も、これから、「神様が私に与えられた道を歩み続けなければならないのだ」、と生きています。これは私たちにもできることです。目の前の危機を見つめて、「どうやって逃れようか」とばかり考えて生きるのではなく、「私たちは神様の目的の中に置かれているのだ」と思って歩むことです。

### ③うろたえて絶望的な思いの中にある人々の心を変えたもの。

絶望的な中に置かれた人々は食事ものどが通らなくなり、パウロの助言もなかなか耳に入りません。しかし、そんな彼らがパウロたちのある姿を見て変えられます。ルカはこう記しています。「パウロは、一同の前でパンを取って神に感謝の祈りを捧げてから、それを裂いて食べ始めた。そこで、一同も元気づいて食事をした。…十分食べてから、穀物を海に投げ捨てて舟を軽くした」(35-38)。パウロたちは聖餐式をしたのです。こんな状況の中でも神様に感謝して食事をする姿を見て、「一同も元気づいた」のです。この世にあって、私たち信仰者は福音を宣べ伝えなければなりません。しかしその前に、どんな状況に置かれていようと、人がどう見ようと、私たち自身がまず神様を思い、神様に感謝する姿を取り続けていることが大事なのだと教えられます。苦難の中にある人も、そのような私たちの姿の背後におられる神様のことを思うように導かれるのです！(16:25 牢の中でも同様の事が起こった)。